

日時 令和5年8月9日（水）午後7時から午後9時5分
場所 松平交流館 大会議室
出席者 太田市長、地域会議委員13名（欠席3名）、企画政策部3名
事務局5名、傍聴者12名

【内容】

1 会長あいさつ

2 市長あいさつ

3 諮問

（1）「第9次豊田市総合計画について」諮問書受け渡し

太田市長と松平地域会議会長で諮問書の受け渡しが行われた。

（2）諮問案件の説明及び質疑応答

企画政策部企画課及び都市計画課から諮問案件の説明が行われた。

第9次総合計画について検討するためにも、第8次総合計画の取組結果等の資料がないかという質問があり、企画政策部から、事務局を通して資料を送付する旨の回答があった。

（3）全体意見交換

【市長】

- ・中長期的な人口減少、少子化、人生100年時代というものは、かつてコロナ前から言われてきたが、新型コロナウイルスの3年4年間を経過する中で、一気に世の中が変わった印象を持っている。今までの総合計画の考え方だと、今後、立ち行かないと思っているため、委員が実感していることを含め、答申をお願いしたい。

【委員】

- ・資料に拠点間の連携という言葉が使用されているが、表現がわかりにくい。連携とはどういうことか教えていただきたい。

【都市計画課】

- ・拠点間の連携とは、中長期的に人口が減っていく中で、各拠点に全ての機能を備えるということが難しくなっていくことが想定されるため、拠点となる地域の機能を連携することで補い合う、そういったイメージで暮らしの連携という言葉を使用している。

【委員】

- ・連携してしまうことで、今できていることができなくなるということか。

【都市計画課】

- ・できるようにするために連携していくという考え方である。

【委員】

- ・第9次豊田市総合計画の方向性を豊田市民として興味深く感じている。資料を見て気になることは、やはり人口減少である。地域会議子育て応援分科会で話し合っているが、地域だけではなく、市、国でも悩んでいるが、豊田市は大きな施策ができると期待している。すぐに子どもが増えるわけではないかもしれないが、若い世代の応援になると思う。期待している、と伝えたい。
- ・デジタルトランスフォーメーション（DX）が加速していると認識しており、自身の仕事に関わることだとペーパーレスがある。市役所において、DXはどんな取組があるのか、教えていただきたい。

【市長】

- ・人口減少の話は、人口が減っていくという前提で取組を考えていく。その取組が上手くいけば、もしかしたら人口が増えるかもしれない、と考えている。
- ・高齢者の数はここ40～50年間変わらず、子どもの数が減少している。少なくなっていく子どもに対して、高齢者の数が変わらないのであれば、1人あたりの子どもに関われる高齢者の数が増えているということになる。これからの時代は、多くの大人が子どもに関わって、知識やノウハウを伝えられるのではないかと考えている。例えば、地域会議が地域の子どものを集めて、子ども地域会議を開催し、子どもたちが自分たちで考え、大人も一緒になって考えるような、子どもが主体の地域会議もあるのではないと思う。
- ・市役所のDXの取組としてスマート窓口がある。窓口が最初に一本化されて、そこで基本的な情報を入力すると、それぞれの窓口で情報が送信されて、自動的にプリントアウトされるものであり、ペーパーレスではないが、手間暇の省略になっている。市役所のDXの究極系は、市役所をなくすことであるだろう。手続きが市役所や支所に行かなければいけない、というものがDXで置き換えられていくことになる。
- ・暮らしの連携については、地域間の連携で暮らしをもっと豊かにしていく、お互いの強みを活かし合い、足りない部分を補い合うことを意識していく。豊田市は平成17年に合併したが、地域で別々にやろうという意識が強くバラバラ感があるため、そのあたりをどう乗り越えていくかがポイントとなる。

【委員】

- ・要支援者の支援は、今まで若い人をあてにしてきたが、今からは老々支援や近助がキーワードになる。個別支援台帳の整備をし、近所付き合いをする、元気なお年寄りの活躍する場を作っていくことが重要でないかと思う。
- ・第9次豊田市総合計画の中に今まであった歴史や文化、教育といった言葉が出てきていないということはどういうことなのか、素朴な思いがある。人間のこころの豊かさを語る際には、歴史や文化、伝統をしっかりと織り込んでいただくとありがたいと思う。

【市長】

- ・ミライ実現戦略2030では、行政施策全体を通して、子どもと愛着誇りの視点が必要と挙げている。いろんな視点で子どもや愛着誇りについて、捉え直すことで、今までとは異なる仕掛けができるのではないかと、ということで子どもと愛着誇りを横断的な目標として掲げている。
- ・松平は、「今住んでいるところに愛着がありますか」という質問に対して、豊田市で2番目に高い数値である。長年にわたる家康の祖先というポジションがあり、その活動が地域に愛着を育てているのではないかと推測している。このような特徴を踏まえた上で、次の行動に繋がっていくといいと思っている。

【委員】

- ・今回、地域会議の諮問が行われているが、区長会やその他団体などに同様な意見交換を予定しているのか、教えていただきたい。

【企画課】

- ・第8次総合計画までと異なり、早い段階で市民の意見を聞きながら第9次総合計画を作り上げていくことを考えている。様々な関係団体や大学、高校で意見を聞いたり、HPで意見が言えるようなものをつくったり、様々な形で意見を聞いていくことを予定している。

【市長】

- ・豊田市の28地域で、1つの地域の中でも違いがある。それにも関わらず、一般論で議論されると、現実的な部分から離れ、空論を重ねるだけのものになりかねない。要支援の話で言えば、松平なら近助力

を発揮できる地域であり、近助力を高めるために現実的な積み上げをし、いざというときに大丈夫な松平であってほしいと思う。

4 市議あいさつ

5 報告

(1) 各会からの報告

① 全体会

令和5年6月14日に松平交流館の大会議室で行った地域会議全体会について事務局から報告。全体会での報告事項は3点。各会からの報告及び令和4年度地域課題解決事業の実績について、令和5年度わくわく事業の二次募集についてであった。また、協議事項は「7月1日発行分の（仮称）松平地域だよりの内容確認について」ということで、多数決により新名称を We Love 松平通信とし、構成や内容について協議・確認を行った。

② 自然との共存分科会

第3回、第4回の分科会について、分科会長より説明が行われた。

松平地区の農地に関する現状を調べ、今後どのように動くかを検討した。その結果、「農地の再生」ではなく「農地の維持」の方向で進めていくこと、八紘園について分科会でできることを検討していくこと、モデル地区となるような候補地を探すことが決まった。また、以前から協議している草刈りボランティアに関しては、おいでん・さんそんセンターの仕組みを中心に、引き続き情報収集を行っていく。

③ 子育て応援分科会

第3回、第4回の分科会について、分科会長より説明が行われた。

第2回までで話に出ていた支援制度については、課題の多さが見受けられ、まずは既存の制度周知を進めるべきであるという結論になった。そのためにも、制度についてより詳細に調査したところ、便利な制度を利用しきれていないのではないかという意見が多く、情報発信の重要性を再確認した。求められている情報を発信するため、We Love 松平通信の利用・こども園の協力依頼を行い、アンケートの実施を検討することとなった。

(2) わくわく事業二次募集团体について

資料に基づいて、わくわく事業二次募集結果について事務局から説明が行われた。

全団体に交付決定金額がいくらになったのか質問があり、事務局からの回答は全10団体での合計は6,191千円であるというものであった。

(3) 第10期地域会議委員改選について

資料に基づいて、地域会議委員改選について事務局から説明が行われた。

選考委員会に関する説明及び改選に関するアンケートの提出依頼があった。アンケートは、再任意向及び委員の構成に関する意見を記載のうえ、8月25日までに提出が必要である。

6 議題

(1) 令和6年度地域課題解決事業 事業計画書について

資料に基づき、7事業の令和6年度事業計画の説明が行われた。

事業計画を確認のうえ、意見等があれば事務局に連絡。地域会議委員の意見をふまえたうえで、令和6年度予算要求に反映させていく。

支障木伐採に関して、どのような計画で行っているのか質問があった。事務局からは、これまで10年間ほど行ってきた支障木伐採は、運営主体等が変わっており一律の計画のもとで行われていないこと、今後も地元からの要望に基づき、順次伐採していくことについて回答があった。

また、成果指標の記載方法について、より成果の分かりやすい表現を検討するよう意見があった。

次回会議について

- ・ 日 時：令和5年10月11日（水） 午後7時から
- ・ 場 所：松平交流館 大会議室
- ・ 議 題：答申書（案）協議 など

次回分科会開催日

- ・ 自然との共存分科会 9月13日（水）午後7時から
- ・ 子育て応援分科会 9月13日（水）午後7時から